

厚木の自由民権運動の 「愛甲婦女協会」について

島口 健次

厚木の荻野は自由民権運動が盛んであったが、この中に「愛甲婦女協会」があった。この「婦女協会のメンバーは荻野を中心とする在地の自由党員を民権家（天野、難波、山川ら）の妻乃至は子女で構成されていた。この女性達の活動は、説明会への参加や学習会への参加を通じて、民権思想を家事のかたわら学び、女性達の自立や解放への熱い息吹を伝えている。「愛甲婦女協会」は1883年（明治16）結成されているが、「愛甲婦女協会」の設立趣意書には、『伝え聞く、西洋諸国の婦人女子は堅く男子と交わりて、或いは男子の朋友と成り、或いは相談相手となりて、世の人の福祉を進め、国家の進歩を助けること、僅かばかりのことにはあらずと。それに引替え、我国の婦女子のありさまを見れば、さながら、男子の玩弄物（なぐさめもの）か。さなくば、これが奴隷（めしつかい）にて、ほとんど人間の数にさえ、入れられざるは、何事ぞや。実に憂は厚木歴史研究会ではしく、また恥ずかしき限りならずや。』こう訴えて、西欧諸国に比べて日本の女性の非人間な境遇と無権利状態を告発し、慨嘆している。そしてこの様な醜悪な制度を打破するには、学問を身につけて、知識を磨き、男性と対等な交際のできるように女性の地位の向上と自立を図らなければならない。そのための手っ取り早い方法は、演説会や学習会であるとしている。厚木歴史研究会では講演会で「愛甲婦女協会」についてアピールしています。